

マッチポンプ(ファイアーファイト、火事の火消し)

やさしい「タグチメソッド」の考え方(矢野宏著・日刊工業新聞社)P43より
マッチポンプという言葉がある。設計が適当につくっておいて、あとで問題を
起こしたらすぐに直してみせる。意図的とは言わないまでもこうした**火消しの**
うまい技術者のほうが評価される傾向にあることは事実である。なにも問題
を起こさないような製品を設計したのでは、誰も注目をしてくれないし、評価
してくれないという風潮が、確かに企業の中には存在するという。問題を起こ
してうまく解決した者が早く出世すると言われるくらいである。自分の周囲を
見回してほしい。納期があるから、まず出荷してしまうなどというのは、その
最もたるものだ。

設計した製品が製造部門でうまくつくれ、しかも市場に行っても
問題を起こさないように責任をとるのが設計の仕事

品質工学の主体は、技術開発の効率のよい評価

オフライン品質工学

オフライン：直接製造工程に関わる以前の、研究開発・設計の段階

研究開発＝源流

設計＝上流

オンライン品質工学

オンライン：製造とか市場の問題を扱う。製造段階でいかに効率よく製造するかを扱う

設計したときはうまくいったが、製造でうまくいかないのは製造が悪いわけではない。

設計は自分たちはやるだけのことはやった、と思っているだけ。

本当は設計が悪い。設計を変えないとならない。

設計は上流とすると、製造部門は下流となるが、
製造部門に対して上位ということは
それだけ責任も重いことなのである。